

くじゅう坊ガツル湿原の植物群落

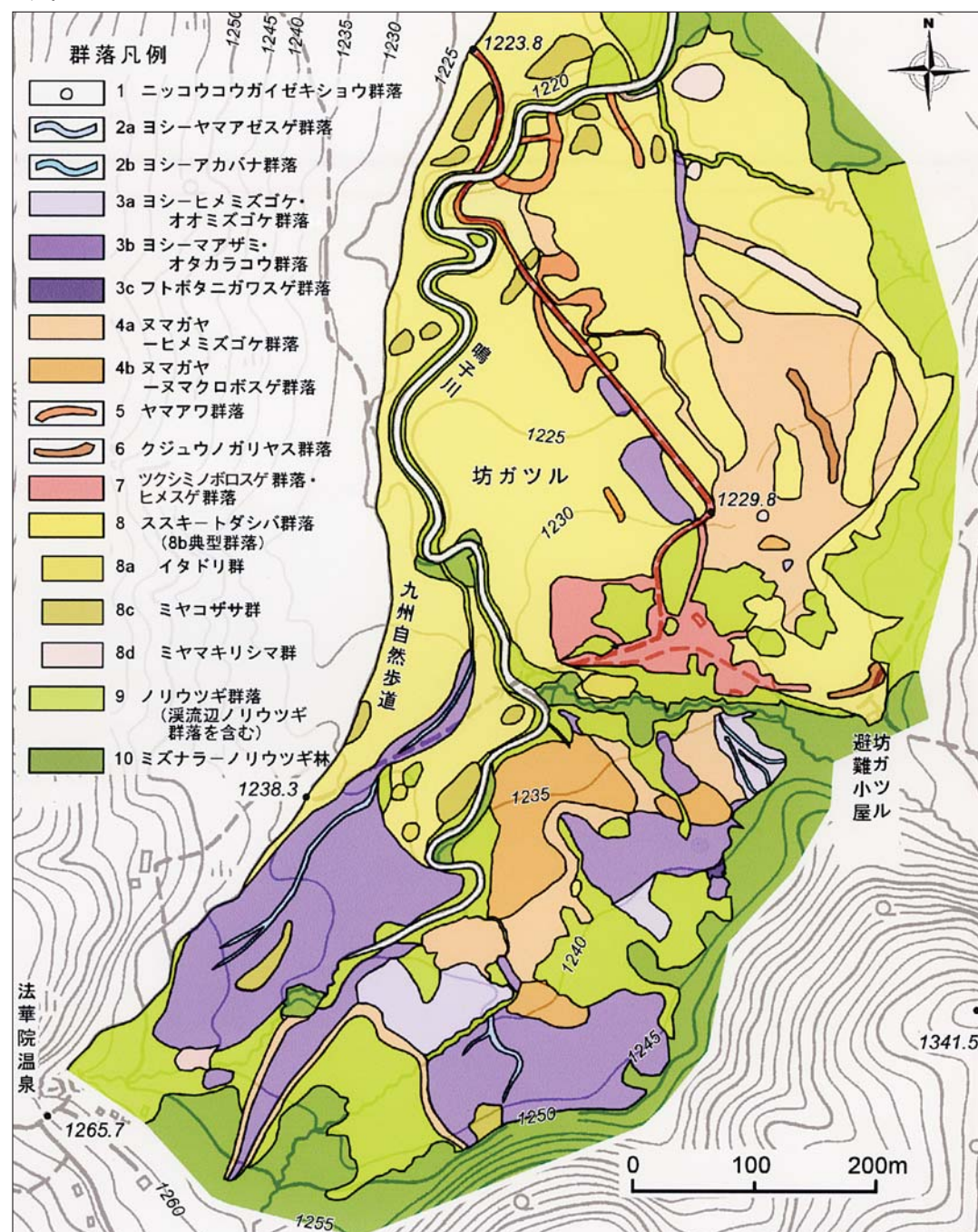
広い坊ガツル湿原の植物群落を調べ、その植物の種類“ある、なし”などで組成表に組み、植生図の「群落凡例」のように、環境に応じた多くの「群落」に区分されました。

たまり池にはニッコウコウガイゼキショウ群落、湿原ではミズゴケを伴うヨシ群落やヌマガヤ群落、凹地にはヤマアワ群落やクジュウノガリヤス群落、キャンプ場や路傍にはツクシミノボロスゲ群落・ヒメスゲ群落がみられます。

湿原の周辺地は、放牧されたススキ群落やササ群落などが取り囲み、溪谷や山岳一帯には、樹林のノリウツギ群落やミズナラ林が発達しています。これらの植物群落の分布を図に表したものが現存植生図です。

坊ガツル湿原は、くじゅう山群の高所にあって、寒冷期に南下した北方寒冷地の植物が湿原の主要な構成種に加わり、これらの植物群落が、ラムサール条約の湿原に登録された大事な要件となっているのです。

湿原の中には立ち入らないようにし、貴重な群落がいつでも栄えていくことを願っています。



くじゅう坊ガツル湿原の現存植生図（2007）
（『火山基本図くじゅう連山』（1：10,000）を基図とする）



坊ガツル湿原（中岳山頂から）
湿原を流れる迂曲した鳴子川が見えます。植生図と合わせてみてください。



ニッコウコウガイゼキショウ群落
（9月下旬）
小さなたまり池にできる群落です。



ヨシアカバナ群落（6月下旬）
湧水の流れに沿ってできる群落。フジウロコゴケが塊状となっています。



ヨシヤマアゼスゲ群落（5月上旬）
湿原の中の細い流れに沿ってできる群落で、ヤマアゼスゲが帯状に群生しています。



ヨシマアザミ群落（5月中旬）
ヤチカワズスゲ、リュウキンカなどの北方寒冷地の植物が群生しています。



ヌマガヤーヌマクロボスゲ群落（6月中旬）
ヌマガヤとヌマクロボスゲが強く結びつき、株が高くなって谷地（やち）坊主をつくります。



クジュウノガリヤス群落（9月下旬）
ヌマガヤ群落と共存します。クジュウノガリヤスは大分の特産種で、坊ガツル湿原に群生しています。



ヤマアワ群落（8月上旬）
ススキ群落に囲まれた谷型の地形に群生します。ヌマガヤやススキ、エゾシロネなどを伴います。



ツクシミノボロスゲ群落（5月下旬）
人が踏み登山路沿いに群生します。キャンプ場ではヒメスゲ群落と共にクッション状に広がっています。